



世界を驚かそう

"K computer" Development Team

世界のスパコンで
産業発展に貢献

Episode. 03

「未知の世界に ワクワクしながら挑戦する」

2000年代半ば、理化学研究所様主導で未踏のスーパーコンピュータの開発が始まった。社内の検討会の名称は「ストロングコーヒー」。目覚めの一杯という名の通り、開発チームは不可能を可能にする情熱と希望を覚醒していく。

開発が佳境を迎えた2011年、未曾有の大震災が日本を襲った。世界のスーパーコンピュータ性能をランク付けするTOP500ランキングは同年6月。震災の影響で厳しくなる納期の中、「この状態から世界一になれば、それが復興への足がかりになる」、被災地の東北にある主要部品工場の社長も不屈の精神で応えた。

難局を越えた末に生まれたスーパーコンピュータ「京」は2011年6月、8ペタフロップス超えを達成し、ついに世界一の座を掴んだ。さらに、同年11月、開発性能目標である10ペタフロップス越えを実現し、2019年に運用を終えるまで、創薬や防災など広く社会を支え続けた。

「富士通の根底には未知の世界にワクワクしながら挑戦するDNAがある」。今も、これからも。富士通は未知の世界を拓く新たな道をつくり続ける。

「京」開発チームから学ぶ 【挑戦】の極意

Point 1: 前例踏襲を疑う

革新的な「京」CPUの開発において、固定観念に囚われない、自由で新しい発想を大事にし、全く新しいアプローチで消費電力の抑制と性能の向上を実現した。

Point 2: 味方を増やす

プロジェクトの成功に向けて、あらゆる人脈を駆使して、プロジェクトへの賛同者を少しずつ増やした。経営陣を工場に招き、現物を前に訴えた。国内外の工場にあいさつに回り「一緒に世界一を」と志を共有するのに心を砕いた。

Point 3: 限界を超える

ギリギリの時期に当初目標を大幅に上回る8ペタフロップス超を目指す方針に刷新した。競合国が当初の目標値に迫り、上回りそうとの噂が耳に入ったためだ。限界を感じてもなお安住せず、次の技術へと繋ぐ「世界一」の称号にこだわった。

「京」開発チーム

2011年、1000人規模のチームを構成した富士通としての一大プロジェクトは、スーパーコンピュータ「京」で世界No.1の演算性能を達成。震災も乗り越え、日本の技術力を世界に示した。

